

長期戦略:テーマ

「教育の長期的成果の検証
学修成果を把握・評価する仕組みの構築」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小野総合企画部長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	教務機構
-----------------------	---------------------	---------------	------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(1)-② 三つのポリシーと学修成果に基づく教学マネジメントの推進(3ポリシーの見直し・検証、カリキュラム見直し・拡充、カリキュラムマップの整備)	2019年度	2024年度	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)	不要
内容				
<p>本学は、大学として「学部の区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」(「Kwansei コンピテンシー」)を時代に即して新たに定め、各学部・研究科はそれを土台に「各分野における学位授与に必要な知識・技能」である DP(ディプロマポリシー)を策定する。この DP は、すべての学生が卒業/修了必要単位数を取得した段階で修得しているべき学修成果を表したものである。この基本原理を守るべく、学部・研究科は(a)DP の再確認(b)DP と CP(カリキュラムポリシー)の整合(c)シラバスの実質化(d)シラバスに沿った成績評価(e)DP と AP(アドミッションポリシー)の連動、を厳格に運用する。</p> <p>本学はこうした学部/研究科による三つのポリシーに基づく教学マネジメントを統括し、大学全体の内部質保証を推進することで、卒業する全ての学生の質を保証する。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	3つのポリシー見直し・検証した学部/研究科の数	3つのポリシーを見直し・検証を定期的に行った学部・研究科の数		
指標2	カリキュラム見直し・拡充した学部/研究科の数	3つのポリシーに基づきカリキュラム見直し・拡充した学部・研究科の数		
指標3	カリキュラムマップを整備した学部の数	カリキュラムマップを整備した学部の数		

目標1<指標1>3つのポリシー見直し・検証した学部／研究科の数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	11学部・14研究科	11学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科
実績	11学部・14研究科	11学部・14研究科	14学部・14研究科			

目標2<指標2>カリキュラム見直し・拡充した学部／研究科の数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	11学部・14研究科	11学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科	14学部・14研究科
実績	2学部・2研究科	7学部2研究科	1学部4研究科			

目標3<指標3>カリキュラムマップを整備した学部の数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	11学部	14学部	14学部	14学部	14学部
実績		11学部	12学部 (理工学部を含まない)			

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
3つのポリシー見直し・検証	策定段階	実施	実施	実施	実施	実施
	2023年3月末段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2023年3月末段階	—	—	—	—	
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
カリキュラム見直し・拡充	策定段階	実施	実施	実施	実施	実施
	2023年3月末段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2023年3月末段階	—	—	—	—	
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
カリキュラムマップを整備した学部の数	策定段階	見直し・検討依頼	実施	実施	実施	実施
	2023年3月末段階	未実施	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2023年3月末段階	—	—	—	—	

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	2020 年度に向けて、全学部・研究科において3ポリシーが検証され、その結果、APは11学部、DPは11学部・6研究科、CPは6学部5研究科において変更がなされた。 カリキュラムの見直しについては、恒常的に多くの学部において検討されている反面、研究科においてはあまり検討されていない状況である。
2020 年度	3ポリシーの見直し・検証の実施は、全学部・研究科において定着していることが分かる。これに加え、7学部2研究科がDPを改正し、7学部1研究科がCPを改正した。また、カリキュラムの改正を7学部2研究科が行った。カリキュラムマップについては、11学部すべてが作成済みである。
2021 年度	3ポリシーの見直し・検証の実施は、全学部・研究科において安定的に運用されている。これに加え、2研究科がDPを改正し、5研究科がCPを改正した。また、カリキュラムの改正を1学部4研究科が行った。カリキュラムマップについては、2020年度には11学部すべてが作成済みであったが、あらたに理学部、工学部、生命環境学部が作成し、作成学部は12学部となった（新規募集停止している理工学部は含めていない）。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	3ポリシーの見直しについては、学部教育の根幹となるため、引き続き継続して見直しを図るよう学部により依頼していく必要があると同時に、APと入学試験問題との関連、CPにより得られた能力がDPと結びついているのかどうか検証する仕組みの確立が求められる。
2020 年度	カリキュラムの見直しについて、恒常的に多くの学部において検討されている反面、研究科においてはあまり検討されていない状況である。大学院活性化の動きと連動して、カリキュラムの見直しを促進する必要がある。
2021 年度	理・工・生命環境・建築学部が新設されたため、新設4学部においてカリキュラムマップの整備を求める必要がある。また、既存11学部についても、カリキュラムマップの形式や粒度の統一がなされていないため、今後は大学としてどのようなカリキュラムマップがモデルとなるのかを検討の上、各学部のカリキュラムマップを再整備していくことが求められる。
2022 年度	2021年度開設の理学部、工学部、生命環境学部、建築学部のうち、建築学部がカリキュラムマップ未整備である。また、経済学部が作成していたカリキュラムマップを取り下げており、まずは引き続き作成を求める必要がある。既存作成学部についても、カリキュラムマップの形式や粒度が統一されていないため、モデルとなるカリキュラムマップを検討のうえ、再整備していくことが求められる。
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	—
2022 年度	—
2023 年度	
2024 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・教学マネジメントの実質化に向けて、学生の履修・学修行動の調査・分析結果を踏まえ、スタディスキル等知識提供型授業のオンデマンド化含めてカリキュラム設計と体系化を推進する必要がある。	継続 ・ 廃止	・ <u>学生の履修・学修行動の調査・分析結果を踏まえたカリキュラム設計と体系化の検討(科目の精選、カリキュラムマップの整備、スタディスキル科目のオンデマンド化等)</u>

【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	